

2023秋の安全登山キャンペーン開催報告

11月4日(土)、紅葉真っ只中の奥多摩細倉橋川苔山登山口で、秋の安全登山キャンペーンを開催しました。春、秋実施している安全登山キャンペーンで今回が4回目となります。青梅警察署、奥多摩消防署、東京都レンジャー、奥多摩ビジターセンターに加え、今回から日本山岳会東京多摩支部からも参加いただき、約40名で、「奥多摩の山を楽しむための十カ条」のパンフレット、「山岳保険の案内」などを約150名の登山者に配布しました。青梅警察署は登山届の受付も行いましたが、登山届を出していない登山者も多く見受けられました。今年、川苔山ではこのキャンペーンの前後も死亡事故が発生しており、遭難事故防止の啓発活動は重要だと実感しました。この様子はNHKテレビのニュースでも取り上げられ、多くの方にお知らせすることができました。今後も山岳遭難防止に向け、合同でキャンペーンを続けて行きたいと思います。

救助隊 加藤 秀夫

初冬の観天望気、開催イベント報告

「初冬の観天望気」は気象委員会が例年開催する定番の実技講習イベントでしたが、中断を余儀なくされていました。今年ようやく再開が決まったのですが、このタイミングで、第一線で活躍されていた先輩委員3人が定年により一度に退任されることになりました。こうした委員会内部の変動が進む一方で気象の世界では劇的な変化が進行していました。高度な気象観測機器や情報処理技術を利用した先進的な気象情報が急速に普及していたのです。具体的には、気象衛星や新型レーダーによる観測をはじめ高度な通信技術やスーパーコンピュータなどの活用により3時間ごとに立体的な予想天気図が数日先のみで、ビジュアル的にもわかりやすく、しかも無料で提供されているという、とんでもない変化が起きていたのです。当然古くから利用されてきた、おおよその気象変化を予測する観天望気の役割が後退していることは誰の目にも明らかであり、新しい観天望気の役割を探ることが目の前の課題となりました。言い換えれば「山行中に必要な3時間ごとの晴雨、気温、風向、風速、湿度、降水量等の科学的な予想が示されているときに、どのような観天望気が必要なのか」ということです。

さて昔むかし、観天望気のヘビーユーザーは忍者でした。雨音に紛れて敵地に侵入するため、雨降りや、晴れが見込まれる際には月明りの有無などを予想しました。稜線にかかる綿のような雲や風の湿り具合などの気象現象を五感でとらえ、重大な決定を下していたのです。忍者以外では農家も雪形や特定の植物の開花や雪虫の動きなどから農作業の日取りを決めていました。人間の体感で判断するという観天望気は思いのほか根が深いのです。

先進の気象情報と観天望気には「ミサイルと竹槍」くらいの差があります。一方で、観天望気はその場にいる人間にしかできないことでもあります。最先端の気象情報を人間の体感と判断で検証するための知恵を新たな観天望気と位置付けると、その新たな役割が見えてきます。今回はそうした検証を幅広く登山の現場で実際に使いながらご紹介するという新たな取り組みでした。参加者の方はガイドの隣でリアルな気象判断を体験できるという構成で開催案内や現地紹介のビデオなどを作成しました。またオンライン説明会を開催し、都岳連のホームページやSNSなどにもアップしました。実際の百蔵山の実技では実況と3時間ごとの立体的な予想天気図に基づき、予定した地点で風向や日照の変化を観測し、予報の正確性や現場での予想天気図の修正の要否などを検証しました。今後は最新のきめ細かな気象情報と現場のガイドやリーダーが行う観天望気によって、別々に導かれた気象判断が相互に検証され、登山者の安全がより一層図られていくよう取り組んで参ります。

気象委員会 委員長 島田 義信

加盟山岳会紹介・会員番号146～火曜山遊会～

火曜山遊会は2001年創立。前身、1963年創立、火曜山想会の組織改革に伴い2000年を跨いで山を想う会から山で遊ぶ会となりました。星の数ほどある山岳会のほとんどが土・日に活動するなかで、当会は火曜日(平日)を中心に活動しています。山想会の頃は、美容師が半数以上でしたが、現在では多種の職業に携わっていて、その多くが土・日に休みづらい会員で、いつも静かな山を楽しんでいます。集会は、第4火曜日に新宿区立地域センター(高田馬場、新宿御苑など10ヶ所)で行っています。会山行は第2火曜日に行い、4・5・11・12月は尾根組&バリ組合同で、6～10月は尾根組(ハイキング)、バリ組(沢&岩)に分かれ個別に行い、1～3月は雪山、また、年2回ほど都岳連講師などを招いて各種講習会を開催しています。会員は集会、会山行の参加義務はなく自由に個人の趣味趣向による山行を楽しむことができますが、集会、会山行の参加は常に50～90%を維持しています。泳ぎの沢を詰め滝に挑むことが楽しみな女史、東京マラソンはじめ各所のイベントにチャレンジし月6～7回山行する75才超えのジジイ、トレランに魅せられ丹沢の麓に引っ越したプロカメラマン、栃木・茨城の低山に電車・バス利用だけで通う者、北岳四尾根をホームグラウンドに足しげく通う者。志向は様々ですが、平日に活動する当会は、土日に活動する山岳会のように個性を強調せず、中道を貫くことが我が会の使命であると確信しています。

火曜山遊会 会長 櫻井 恒夫



編集後記

この通信4号の発行企画会議と各委員会への原稿依頼をしていた頃は、記録的な猛暑日の名残が続いていて、時々夏日もあつて半袖でも大丈夫でした。校正作業をしているいま、季節はすっかり冬になってしまっていて、秋はアツという間に終わったかと思いましたが、観光地からの紅葉情報が毎日のようにニュースで流れてきます。秋と冬が行ったり来たりです。五月にコロナが第五類に移行してから、都岳連活動も徐々に元に戻り、この秋は都岳連は講習会など、たくさんイベントを開催しております。全てをご紹介したいのですが、誌面の関係で一部しか紹介出来ないのがとても残念です。この通信がお手元に届く新しい年、皆様はどんな年を迎えられているでしょうか。都岳連新春の集いも開催されます。出版委員会は令和六年も都岳連通信を通して、様々な情報を発信して行きたいと思っています。

出版委員会 星野 恒行



会山行バリ組/尾瀬片品川一の瀬川 ナメ沢



会山行尾根組/秩父 般若山&釜ノ沢五峰



公益社団法人 東京都山岳連盟

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-10 パークサイドセブン2F

Tel/03-3526-2550 (月～金13:00～17:00) Fax/03-3526-2551(常時) https://www.togakuren.com E-mail:lej04543@nifty.com

2023 年 4 号

公益社団法人東京都山岳連盟

TMF

とがくれん通信

写真：山岳写真ASA 秋山 久江/北横谷より葛科山

都岳連HPでクリック

山岳遭難事故増加の背景を考え、事故防止対策に取り組んでいきましょう

2023年、山岳遭難事故は過去最大を記録した2022年を上回るペースで発生しました。その中で東京都は全国第2番目の事故件数、かつ、アルプスなど他県への遭難者の送り込み元ともなっています。新年を迎え山岳遭難事故増加原因を考え、事故防止対策について都岳連の取組みを考えてみます。

1. 増加の背景＝コロナ禍後の登山者数増加と挑戦マインド

- ・緊急事態宣言・まん延防止等重点措置などの解除 →体力・運動不足のまま行動・遭難
- ・コロナが感染症法5類へ移行 →登山者が増加
- ・リスクを考えた選択から解放 →(例) ジェンダラムでの事故多発

2. 山岳遭難の増加傾向の共通要因、高山と低山の事故態様の違い

- (1) 高山・低山とも共通する事故態様
 - ・転倒による骨折、怪我等の救助要請が多いことは高山、低山ともに共通
- (2) 近郊から2000m級までの事故の特徴と事故防止策
 - ・下りを中心とした道迷い・転倒、ライトや地図を持たないなど基本軽視が多い
 - ・救助要請なく、帰宅しないので家族などが捜索届を出すケースもあった
 - ・計画を家族などが知らず、登山届も未提出のため捜索が難しく助からないケースも出た
 - ※事故防止対策として、登山届提出、行動予定共有、地図、携帯GPS、ライト、予備食、防寒具携行を徹底
- (3) 中～高山での事故の特徴
 - ・岩稜帯での転滑落、体力不足での転倒骨折が多い
 - ・映像情報をTVやYOUTUBEなどで手軽に見ることができ、安易に考えがち
- (4) 季節、気象に起因する事故/甲斐駒黒戸尾根雪崩事故、那須連峰遭難
 - ・雪山経験が乏しく雪崩の予見、積雪状況の判断ができない、強風の影響が予見できない
 - ※上記(3・4)の事故防止対策として、登山技術等の適切なステップアップとコース選択、リスクの認知が必要

3. 奥多摩・東京発の山岳遭難事故防止活動に向けて

- 第8回「山の日」全国大会東京2024開催のタイミングに向けて新たな事故防止活動を始めていきたい。
1. 安全登山の十カ条などのネット発信
 2. 主要コース情報の発信
 3. 登山届提出率向上への取組み＝駅掲示QRコードから届け出と情報提供
 4. リスク情報の発信＝事故分析と事故情報の提供
 5. 安全登山キャンペーン＝オンライン講習会開催、救急法・緊急対応など情報発信

上記をふまえ、新年も皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2024年1月 公益社団法人東京都山岳連盟 会長 廣川 健太郎

役員研修会を行いました

都岳連では年に1度、役員研修会をしていますが、今年度は去る9月30日に理事・監事、専門委員長、専門委員29名が参加して行われました。昨年度はコロナ禍もあってZOOMでの実施であり、今回は久しぶりの対面での開催となりました。ここ数年、女性や個人会員の役員登用が目指されていましたが、会場には女性役員の姿が目立ちました。この日は藤田事務局長の進行で、廣川会長と桜井専務理事からは当面の都岳連の運営方針が説明され、本郷理事・財務部長から事業報告などの実務について、また岡崎コンプライアンス委員長からは公益法人の役員としての心構えなどが説明されました。そして最後には4グループに分かれて、これからの都岳連を支える人材の発掘や育成について意見交換を行いました。このグループでの意見交換では、定年制が始まったことで人材の発掘と育成が急務であるとの共通の認識が示されました。

そのためには同じ所属の会から、あるいは個人会員が個人会員に声をかけること、また、講習会参加者を誘ってはどうかなどの提案がなされました。さらには、役員の公募や役員の業務に見合った処遇を検討してはどうかなど建設的な意見も出されました。なお、今回は加盟会や個人会員の皆様にも都岳連を知って頂き、身近に感じて頂く機会としてご出席のお声がけをしましたが、1名の方に出席して頂きました。運営者としてうれしいことでしたので、今後もこうした機会への参加を呼び掛けて参ります。

総務部長 松本 敏



「おもしろ地球観察会2023」開催報告

今年のおもしろ地球観察会は石灰岩に注目。場所は日の出町にある勝峰山です。テーマは2つ。

(1)五日市鉄道岩井支線の廃線跡を歩く (2)勝峰山でフズリナ化石を探そう
11月18日(土)快晴。勝峰山は、中生代ジュラ紀(約1.4億年前)の地層である秩父帯の中にあります。奥多摩地域の石灰岩は、昔、青梅街道を馬で運ばれ江戸城の白壁(漆喰)などに使われました。明治から昭和の時代この地域の石灰岩は、旧浅野セメントにより切出し・加工され、近代化(殖産振興や戦後の復興)に貢献しました。浅野セメントは、品質と技術を重視した会社で、工場があった深川(東京)や川崎に石灰岩を運ぶために、青梅鉄道、甲武鉄道(現中央線)、南武鉄道の鉄道網整備を進めました。大正14年には五日市鉄道・武蔵岩井線も開業、勝峰山の麓にセメント工場を建設(昭和2年)し、関東地方最大のセメント生産量を誇りました。戦後の財閥解体を経て岩井支線は、昭和57年にトラック便になるまで続き、今は廃線跡として残っています。
さて、フズリナは、P-T(ペルム紀と三畳紀)境界(2.52億年前)に絶滅した示準化石です。絶滅した化石が秩父帯(約1.4億年前の地層)の中にどうしてあるのか不思議です。これは、遙か南米沖の中央海嶺から上がってきた海洋プレートが3億年以上の時間をかけて日本海溝に沈み込んでいるからです。海洋プレート上の海山等で生育した珊瑚礁が石灰岩となり付加帯として秩父帯の地層に取り込まれたもの(異地性石灰岩)なのです。また、五日市付近には、浅い近海で育った珊瑚礁よる(現地性)石灰岩もあり、「鳥の巢石灰岩」として区別されています。今回は残念ながらフズリナ化石発見までには至りませんでしたが、山頂付近には石灰岩の風化・浸食によるカレンフェルトやドリーネなど見所が沢山ありました。
好天に恵まれ山頂からの眺望(関東平野俯瞰・筑波山・奥日光など)は素晴らしく、楽しい旅になりました。

自然保護委員会 石井 弘好



石灰岩の露頭観察



カレンフェルト

2023年第1回会員交流会を開催しました

11月19日、日和田山にて久しぶりにアウトドアでの会員交流会を開催しました。午前中に日和田山を登りながら指導委員会の秋山講師のもとブレードコンパスを使って地図読みをし、立ち止まって、尾根、谷の確認や歩き方の指導を受けながら山頂を目指しました。当日はお天気に恵まれ、遠くスカイツリーや富士山も眺める事ができました。午後からは巾着田に移動して、国際山岳看護士の資格を持つ伊藤講師からケガ人に山で遭遇した際の対処法などを学習しました。
今回は個人会員が6名、加盟団体3団体から計7名の方が参加されました。都岳連からは会長、専務理事を含む9名が参加しました。講習終了後、飯能の中華屋にて希望者で親睦会を実施しました。お酒を飲みながら美味しいお料理を食べて、皆様、いろいろな方と山の事などをお話になりアツと言う間の2時間でした。
今後も会員交流会を定期的に開催していきたいと思っております。皆様、是非ご参加ください。

会員委員会 委員長 末廣 八千代

【参加者の声】

- ・地図読み&救命救命講習とても良かったです。地図はわかっているようで、奥深さを感じました。個人会員になっていちばん良かったと思えたイベントでした。
- ・地図読みのお話は、進行方向の確認だけでなく、距離や時間、斜度を地形図から読み解いたり、逆に地形図の限界や、山の成り立ちなど、深く多角的に学ぶことができました。
- ・登り下りや岩場での歩き方に関して、講師の方々から都度いただくアドバイスがありがたかったです。
- ・セルフレスキュー講座も、現役国際山岳看護士からのお話は迫力があり、私も頑張って勉強したくなりました。



杉山修の山と版画の世界

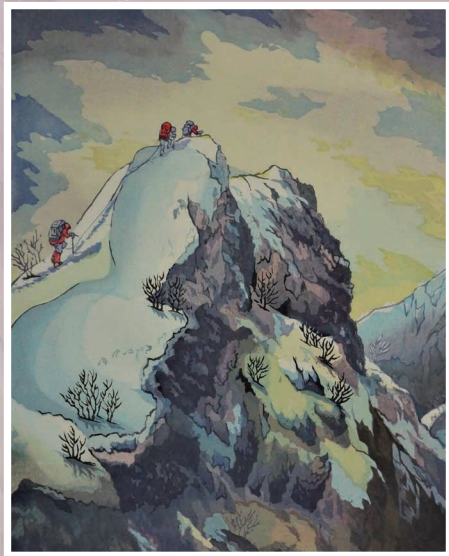
第8回

私の所属する「日本山岳画協会」という団体があります。戦前の昭和11年、当時山を描く画家達によって発足しました。それぞれが所属する画壇を越えて当時活躍していた画人達がお互いに親しみを増し、作画にも発表にも便宜を加え観賞や研鑽の機会を多くしようと結集しました。山岳画と風景画の違いが何時も話題になりますが、私達は山岳の姿、形を写し取るのではなく、山岳の魂、心象を描ききる事を標榜しています。技法は油彩画、日本画、水彩画、版画など多様な作家で構成されています。今年創立87周年になり、過去には文化勲章、芸術院会員、文化功労者などを輩出してきました。現在は23名の画家が在籍しています。年1回の定例展を東京有楽町で、小品展を御徒町にて開催しています。次回は2024年7月上旬の予定です。皆様にも機会がありましたらご高覧頂きたく存じます。

さて今回は、冬の前穂高北尾根の姿です。20年ほど前でも古い話で恐縮ですが、かつて好山会の冬山合宿で穂高を目指しました。北尾根の八峰の鞍部に幕営し前穂山頂をめざして出発するメンバーです。当時の山岳会はどこも会員数も多くて活動も盛んでした。大きな天幕2張りに12人が潜り込み1つの鍋を囲んで山の歌を大声で歌っていました。翌朝夜明けとともに出発する会員の後ろ姿を描きました。もちろん最年長の私はテントキーパーです。快晴に恵まれ留守番役の私は刻を忘れてスケッチと写真で天幕の周りを徘徊しました。いい思い出になっています。



プロフィール
杉山 修(すぎやま おさむ)
1946年 東京、下町に生まれる。
登山活動の傍ら、四季を通して、写真・スケッチの取材を行い、山岳風景をテーマに、自撮り、自彫りの木版画を発表している。
好山会会員、日本山岳画協会代表幹事、日本版画院同人、日本山岳文化学会会員
ホームページ: osamuhanga.com



タイトル「前穂高北尾根」
500 x 600mm
7版25色摺
越前和紙 生涯奉書紙

優待施設紹介

日光「奥日光小西ホテル」 男体山・白根山や戦場ヶ原などのトレッキングの拠点となる温泉ホテル

日本百名山に数えられる男体山・白根山を始めとした日光火山群に囲まれた地、奥日光。直径10kmほどの範囲でありながら、標高2,000mを超える主要な山だけでも10座を越え、火山活動により生み出された地形は、山・川・湖・滝・森・湿原・草原と実に変化に富んでいます。
これらの自然景観は常に人々の関心を惹き、古くは山岳信仰の聖地として、明治期以降は各国要人の避暑地として、また現在では国立公園として長く愛されています。その最奥部にある湯元温泉は、1,200年以上の歴史ある温泉地。豊富に湧く硫黄泉は、山々を歩いた疲労を癒し、更なる山行への活力を与えてくれる事でしょう。
私共、奥日光小西ホテルは、この湯元温泉街の中心部に立地しており、真っ白に濁った温泉とA5ランクのとちぎ和牛をメインに据えた会席料理で皆様をお待ちしております。また、当ホテルにはNHK-BSなど様々なテレビにも出演をする名物ネイチャーガイドが在籍し、トレッキングやスノーシューのプライベートツアーを通年実施しております。コース策定や時期に応じたコースアドバイスも行っておりますので、気軽にお問合せ下さい。登山やトレッキングの他、自然観察、釣り、SUP、カヤック、自転車、写真撮影、スノーシュー、スキーと、四季を通じて野外活動が楽しめる奥日光地域。その活動拠点として、是非ご愛顧ください。

奥日光小西ホテル ネイチャーガイド/コンシェルジュ 安倍 輝行



夕食



貸切風呂

全国優待施設案内

- ◎宿泊施設
- ◎奥多摩/三条の湯
- ◎奥秩父/雲取山荘
- ◎富士山/三ツ峠山荘、トモ工館
- ◎谷川岳/関東/谷川岳肩ノ小屋、永楽荘、谷川温泉(株)旅館 たにがわ、孺恋の宿 あいさい、土合山の家、下仁田 荒船の湯
- ◎日光/日光澤温泉、スパ・ビレッジカマヤ、日光湯元温泉(株)奥日光小西ホテル
- ◎浅間/天狗温泉 浅間山荘
- ◎尾瀬/山ノ鼻小屋、尾瀬小屋、燧小屋

- ◎新潟/笹廣館、燕温泉(有)ホテル花文、赤倉温泉大野天風呂「滝の湯」
- ◎丹沢/蛭ヶ岳山荘、みやま山荘
- ◎ハケ岳/蓼科山頂ヒュッテ、赤岳天望荘、ヒュッテ夏沢、美濃戸山荘、ハケ岳山荘、ハケ岳オーレン小屋、ペンションさんどりりよん
- ◎北アルプス/明神館、太郎平小屋、薬師沢小屋、高天原山荘、スゴ乗越小屋、みくりが池温泉、雷鳥沢ヒュッテ、らいちょう温泉雷鳥荘、ロッジ立山連峰、大和リゾート(株)Royal Hotel 長野、中房温泉、殺生ヒュッテ、新穂高温泉 ひがくの湯と登山者食堂、白馬八方温泉
- ◎中央アルプス/ゲストハウスみんなのいえ
- ◎南アルプス/北岳肩ノ小屋、山彦荘、赤石温泉

- ◎東北・北海道/八幡平高原ホテル、アルプ天元台、八甲田山荘、飯豊山荘、茅葺屋根の民宿「離騒館」、竜山荘、三斗小屋温泉 大黒屋、酸ヶ湯温泉、ペンションあるべじお、八幡平リゾート(株)八幡平マウンテンホテル、(株)宿かり屋ドッドコム 焼走り国際交流村、(有)元湯甲子温泉 大黒屋、十勝岳温泉(株)社凌雲閣
- ◎関西・中国/ホテル大山 しろかね、ペンションいぶき、皆生温泉(株)三井別館
- ◎四国/剣山頂上ヒュッテ
- ◎九州/大和リゾート(株)Active Resorts霧島

- ◎登山用具販売店 神田/さかいやスポーツ
- ◎クライミングジム 西東京市/クライミングジム GIRI.GIRI

TOBU 東武鉄道

finetrack

MCM Japan Ltd.

クライミングシューズ
リソール・修理
クライミング用品輸入販売
登山、クライミングの保険
有限会社 セブンエー
195-0063
東京都昭島市野町南町1741-1
TEL:042-860-2467
Mail:info@7ejp

KEM
K.E.M.JAPAN LTD.

mont-bell

COCO HELI

Pokkem
ほそやかこう
細谷火工株式会社
東京営業所 TEL:03-3357-0781

OutdoorVillage
JR昭島駅徒歩3分
「東京登山」の新拠点
アウトドアブランドの道具・用品は12店舗が
あつたアウトドアライフをより豊かに
検索「モバイル アウトアフレジ」

汗かく人が偉い人。
Meiko
明宏印刷株式会社
TEL:03-5394-1861
TEL:03-5394-1845
meiko@pr.email.ne.jp
〒170-0004
東京都昭島区北大塚 3-21-10-4F

国内唯一の山岳遭難対策制度™
JRO(ジロー)の会員制度
JRO 捜索・救助費用を550万円までカバー。
入会お問合せ先 (平日10時~18時)
ジローリエゾンセンター TEL:03-6273-1521
日本山岳救助機構合同会社

スポーツランド WINNER 100% BIG